

第2回新潟県地域未来戦略有識者会議 議事概要

1 開催概要

- (1) 日 時：令和8年6月16日（火）9：30～11：30
- (2) 会 場：新潟県自治会館別館9階ゆきつばき
- (3) 出席者：委員11名中、11名出席（うちWEB出席1名）

2 議事概要

(1) 知事政策局長挨拶

(2) 資料説明

資料2「新潟県及び市町村における検討状況」、資料3「フードテック」、資料4「電子機械・情報通信関連産業」、資料5「アニメ」、資料6「金属洋食器」、資料7「撰田屋・宮内地区：歴史と醸造・発酵文化を核とした観光戦略」、資料8「上杉謙信公を核としたインバウンド誘客」の説明を行った。

(3) 主な委員意見

資料説明後の意見交換における主な委員意見は以下のとおり。

ア 地域産業クラスター（フードテック）について

- 全国から地域未来の計画が提出される中で、人間の基本は食べ物であること、新潟の強みを活かせること、他県にはできないことから、新潟県としてフードテックの取組を進めることは非常にいいと思っている。
- これから5年、10年を見据えたときに、新潟・長岡の歴史的背景も含めた強みを活かせるという点も勘案し、この産業クラスターがしっかり根付くようにしっかりとやっていくべき。
- 色々な事業者が、どちらかと言うとチャレンジをしていくプロジェクトを行っていくので百発百中でうまくいくものではないと思っている。個々の取組に対して、うまくいかなかった場合だけでなく、目標を達成した場合も要因分析をしてほしい。
- 核になる企業への支援だけでなく県全体の取組にしていかないと目標の達成は困難だと感じている。計画の提出後も広く機運を高めていく必要があると思っている。
- 目標未達の際の撤退、計画の中断ということを踏まえれば、計画の前半にできれば成功事例がほしいところ。

イ 地域産業クラスター（電子機械・情報通信関連産業）について

- 新潟の強みであるものづくりの基盤となる取組を、中越地区でしっかりとやっていくことが将来の新潟にとっていいことだと思っている。AIを含め、民間事業者と色々な選択肢ができるということもあるだろうから、この分野はぜひ申請をし、頑張ってもらいたい。
- 生産性向上のために、県内外の AI 関係の開発等を行っている企業を取り込んでいくことが望ましい。

ウ 地域産業クラスター（アニメ）について

- ものづくりだけでなく、アニメという産業に着目するのは新潟の特色と言える部分があり、成長の可能性がある分野であることから、いいことだと思う。尖った取組かつ精度の高いものになるとよい。
- これだけ人材を輩出しても7割以上が首都圏に行ってしまうという構造は新潟県としては課題であると思う。新潟オリジナルの知的財産を持つことができるとよい。
- 付加価値額を高める上で、コンテンツツーリズム等、外から来る方への仕掛けもあるのではないかな。もう少し分野や視野を広げた形で検討してほしい。

エ 地場産業成長プラン（金属洋食器）について

- 新潟県の本当の優位性がある業種だと思っている。
- 機械化できるか否かは、技術的な可否に加えて、経済的にペイできるか否かという観点も必要。
- 現在、様々な分野で高齢化や人材難が課題になっているため、人材育成の視点がわかりやすく見えるとよい。

オ 地場産業成長プラン（撰田屋・宮内地区：歴史と醸造・発酵文化を核とした観光戦略）について

- 新潟県のコアバリューの中に重要なストーリーとして「発酵文化」があると思うので、ぜひお願いしたい。
- 最近の高付加価値の旅行者は、自分の理想の旅の実現が非常に重要であり、どちらかと言えばスローで、そこの生活に滞在し掘り下げて地域を楽しむことを好んでいる。そのため、住民の方々の幸福や安全への配慮が非常に重要である。

カ 地場産業成長プラン（上杉謙信公を核としたインバウンド誘客）について

- インバウンドの誘客が目的であれば、昨今全国的に言われている観光公害や地元住民との軋轢が報じられている中で、ただ単に儲けるだけではなく、住民の満足度を加味するのは大事な視点である。

キ その他

- 計画策定に関して仕組を理解するのが難しい部分もあるので、12月の申請に向けては市町村向けに説明ができると、結果的にいい案ができることにつながっていくのではないかと思う。
- 全体的な枠組の中で伴走支援がかなり協調されている。個々のプランの間で連携が必要な部分や共通のテーマ性がある場合もあるため、県には市町村が独自に出してきたものを整理し、実際に事業がスタートした後の長期的なフォローにしっかり取り組んでほしい。

以 上